

定例記者会見資料



○日 時	令和元年 10 月 10 日（木） 13 時 30 分～
○会 場	島根県立大学 本部棟 2 階 特別応接室
○会見者	清原正義 理事長・学長
○会見項目	<p>【3キャンパス共通】 ・島根県立大学の入試改革方針について〔資料 1〕</p> <p>【浜田キャンパス】 ・中国 北京大学国際関係学院との合同国際シンポジウムの開催について〔資料 2〕</p> <p>【出雲キャンパス】 ・第 1 回防災ピクニック&防災ミニオリンピックの開催について〔資料 3〕</p> <p>【松江キャンパス】 ・第 5 9 回飛鳥祭の開催について〔資料 4〕</p>
○行事予定	<p>【浜田キャンパス】 ・島根県・中国吉林省友好交流 25 周年記念事業 at 海遊祭 10 月 13 日（日）、14 日（月）10：00～15：00 @中講義室 4、エントランス付近</p> <p>・浜田市安全安心まちづくり推進大会10 月 26 日（土）16：00～ @浜田キャンパス講堂</p> <p>・はまだ灯 201910 月 26 日（土）18：00～ （浜田市安全安心まちづくり推進大会終了後） @浜田キャンパスコミュニティプラザ</p>

※会見及び資料提供に関する問い合わせは、資料に記載されている担当者あてにお願いします。
なお、行事予定の問い合わせは、以下のとおり、お願いします。

浜田キャンパス 企画調整室 TEL 0855-24-2201
出雲キャンパス 管理課 TEL 0853-20-0200
松江キャンパス 管理課 TEL 0852-26-5525

島根県立大学
マスコット
キャラクター
オロリン



※次回の定例記者会見は 令和元年 11 月 14 日（木）13:30 から開催予定です。

令和元年 10 月 10 日
理事長・学長 清原正義

入試改革 全学方針

改革目標

- ① 県内高校生の県立大学進学者を増やす。
- ② 併せて入試制度の効果を高め、入試の効率化を図る。

1) 全学方針

- ① 全学方針のもと各学科、コースごとに入試方法を決定。
- ② 令和 3 年度入試（令和 2 年度に実施、浜田キャンパス）から実施。松江、出雲キャンパスは令和 4 年度入試（令和 3 年度に実施）から実施。
- ③ 一般選抜（現：一般入試）、学校推薦型選抜（現：推薦入試）、総合型選抜（現：AO入試）を行うが、入試区分の組み合わせは、原則として、各学科、コースで決める。
- ④ 学校推薦型選抜は「一般推薦」と「連携校推薦」の 2 種類とし、県内高校から推薦を受ける。
- ⑤ 総合型選抜は県内および県外高校生を対象とする。
- ⑥ 学校推薦型選抜、総合型選抜では、原則として、共通テストを課さない。
- ⑦ 従来の県内枠は、維持・拡充を目指す。

2) 連携校推薦（共に育てる入試）の概要

- ① 連携校は県内の高校から 1 学期末に公募。従来の入学実績、高大連携授業への参加など、一定の条件を満たす高校を連携校とする。
- ② 大学は学科、コースのアドミッションポリシーに基づき、学科、コースごと「連携校推薦」の導入及び連携校推薦枠を決定。
- ③ 「連携校推薦」では、高 3 の 1 学期に校長から 3 名以内の推薦候補者を受け推薦された生徒は、夏季休業期間中に高大連携授業（2 回程度）に参加する。2 学期に高校での学習を踏まえた成果発表会を行う。11 月に出願を受け、11 月～12 月に合否を決定。詳細は年度内に発表。

3) その他

- ① 入試改革の目標は県内高校生の受け入れ増加。当面、全学で 5 割超を目指す。
- ② 入試改革は全学方針のもとで段階的に実施。

令和元年 10 月 10 日
理事長・学長 清原正義

島根県立大学の入試改革構想

—「共に育てる入試」を目指して

令和元年 9 月
島根県立大学
理事長兼学長 清原正義

島根県立大学の入試改革

1. 基本的考え方

○地方創生と県立大学

島根県立大学は、島根の地方創生にとって必要な「地域を担う人材の育成」に、重要な役割を果たす。一方、地域の高校生が、島根県立大学により多く進学することは、若者人口の県外流出の歯止めとなる。

○県内高校生が多数不合格

ところが、県内高校生のかなりの数が、島根県立大学を受験しても、合格できずにいる。不合格になった高校生は、県外の大学に進む以外にない。県内大学への進学を希望しながら不合格となり、結果として県外に流出する高校生が、多数いることに留意すべきである。

○入学者割合を5割以上へ

島根県立大学は、県内高校生の進学を受け皿となる努力を続けてきた。県内枠を設け、全体(3学部、短大部)で入学者の約4~5割が県内者である。ただ、キャンパス間で大きな格差がある。県内者を増やすことは中期目標でもうたっている。現状では、当面、全体で5割以上を目指すべきだと考える。

○入試改革の実施

上記を踏まえて、島根県立大学は、県内高校生の進学を増やすための入試改革を実施する。その骨子は、①学校推薦型選抜(現:推薦入試)と総合型選抜(現:A0入試)の拡充、②連携校の設置、③学校推薦型選抜・総合型選抜への共通テスト利用の原則撤廃、④学科・コースによる入試改革、以上である。なお、併せて、効果的、効率的な入試とするため、一般選抜の個別学力試験における教科試験の原則撤廃等を行う。

○改革推進の課題

入試改革は入試から就職までの総合戦略のもとに進める必要がある。また、県立大学だけで進めることはできない。ひろく、関係者・団体の協議のもとに、オール島根の開かれた改革とすべきである。また、入試改革を積極的に進める学科・コースへの、



予算、人員面での支援を検討する必要がある。

2. 入試結果の現状

OH31 入試結果と不合格者

3 学部合計で、入学定員 450 名のところ、県内受験生は 468 名、このうち合格者は 183 名で、不合格者が 285 名である。短大部は入学定員 80 名のところ、県内受験生は 195 名、このうち合格者は 98 名で、不合格者が 97 名である。両者あわせて、合格者 281 名に対して不合格者は 382 名にのぼる。県内高校生から多数の不合格者が生じていることがわかる。

○一般入試と推薦・A0 入試

県内受験生の合格・不合格の状況は、一般入試と推薦・A0 入試で異なる。推薦・A0 入試は県内枠(総数145)があるため、合格率は60%である。これに対し、一般入試の合格率は21%にとどまる。一般入試の合格率が低い要因は、①県内受験生の学力低下、②高校の進路指導、③大学の魅力に対する認識不足などが考えられる。他方、浜田キャンパスで県内枠に欠員が生じていることも問題だといえる。

3. 入試改革の全学基本方針

○県内枠の拡充

現在、推薦・A0 入試で県内枠を設けている。県内枠はそれぞれの学科で設けているが、枠総数をさらに拡大する必要がある。学校推薦型選抜はすべて県内枠とし、県内枠を活用して県内高校生の入学を増やす改革を行う。

○学校推薦型選抜、総合型選抜への共通テスト利用を原則として撤廃

現在、推薦・A0 入試でセンター試験を課している。しかし、合否発表時期が遅れる、専門高校生の受験が制約され、人材の発掘に不利になる、などの弊害がある。近隣の大学でセンター試験を課している例は少ない。今後、共通テスト利用を原則撤廃して調査書、ポートフォリオ、活動実績(総合的学習の時間等)を重視する必要がある。

○連携校の設置と連携校推薦(「共に育てる入試」)

県立大学との高大連携を積極的に推進する高校を連携校と位置づけ、高大連携授業などの活動を評価し、連携校推薦(「共に育てる入試」)に活用する。新設する連携校推薦(「共に育てる入試」)枠は県内高校から募集する連携校を対象とする。連携校以外の県内高校は、学校推薦型選抜(一般推薦)の対象とする。

県立大学入試の枠組み

入試区分	入試名	対象校
一般選抜	一般選抜(前期・後期)	県内・県外の高校
学校推薦型選抜	一般推薦	県内高校
	連携校推薦(「共に育てる入試」)	県内連携校
総合型選抜	総合型選抜	県内・県外の高校

(注)

- ①一般選抜(前期、後期)は共通テスト利用。個別学力試験における教科試験は原則行わない。
- ②学校推薦型選抜は県内高校のみ対象。
- ③連携校推薦(「共に育てる入試」)は、高大連携型入試として新設。県内高校を対象に連携校を設定。
- ④全学方針の下で、各学科・コースが入試方針を決定。一般選抜、学校推薦型選抜・総合型選抜の組み合わせ及びその内容、募集人員等は各学科・コースで検討。

4. 条件整備

○学科、コースごとの入試改革

最終的な入試方針は学科、コースでアドミッション・ポリシーに基づき決定する。一般選抜(前期、後期)の募集定員、学校推薦型選抜、総合型選抜の募集定員は、基本的に学科、コースで判断する。

○全学的な入試検証機関の設置

入試方法、入試の実施、合否判定の妥当性を、全学的に検証し、次年度入試の改善に活かす。場合により、学科、コースに改善勧告を行う。

○県立大学入試改革推進協議会(仮称)を設置

県内入学者増をオール島根で進めるため、県、県教委、自治体、高校その他関係者による協議組織を設置する。同協議会は必要な提言を行う。

5. スケジュール

入試改革は、令和 3 年度入試(令和 2 年度に実施、浜田キャンパス)から実施。松江、出雲キャンパスは令和 4 年度入試(令和 3 年度に実施)から実施。

6. 終わりに

入試改革には様々な取り組みの視点がある。ここでは、島根県の人口減少対策を念頭に、県内高校生の県立大学への進学者を増やすことを中心に検討した。もちろん、県外高校からの進学者も重要であり、島根県の関係人口となるよう努力する必要がある。北東アジアを中心に外国人留学生についても留学生枠の設定など、留意する必要がある。

地方創生が叫ばれる中で、島根県は高校生の県外大学進学が多いと指摘されている。しかし、一方で多くの県内高校生が、県内大学への進学を希望しながら、果たせていないのも事実である。実に 400 人に近い県内高校生が県立大学を不合格になっている。その結果、県外に流出しているという事実、私たち県立大学関係者は真剣に目を向けるべきである。

表1. 平成31年度入試結果概要（IR 室データ）

入学定員	受験者数	合格者数	入学者数
530	1,552	711	578
うち 県内 高校生	663	281	241
		不合格者 数 382	当面の目標 300 (県内者比 率 50%超)

令和元年10月10日
島根県立大学 浜田キャンパス
担当：浜田キャンパス企画調整室
電話：0855-24-2201

中国 北京大学国際関係学院との合同国際シンポジウムの開催について

1 目的

本シンポジウムは、米中間の戦略的緊張が高まっている中で、日米同盟を外交基軸に据えた日本と、国際社会で影響力を拡大しつつある中国とが、いかにそれぞれのナショナリズムを制御して、東アジアにおいて相互協力と相互信頼関係を構築していくかについて、歴史と外交の両方から考察することを目的としています。

2 日時

2019年10月25日（金） 10:40～16:50 （10:00開場）

3 会場

浜田キャンパス 講堂 （浜田市野原町2433-2）

4 内容・プログラム

別添 チラシをご参照ください

5 出席者

ご関心のある方であれば、どなたでもご参加頂けます。

6 参加費用

無料



島根県立大学



北京大学

島根県立大学・北京大学国際関係学院合同シンポジウム

ナショナリズムの再考と日中関係

「二帯一路」構想と日本の対応

本シンポジウムは、日本と中国がいかに関係を構築して互いに信頼関係を構築していくかについて、歴史と外交の両方から考えようとするものである。それとともに、近年、中国による「二帯一路」イニシアティブが大きな話題を呼んでいる。中国が展開しているこの戦略に対して、日本はどのように対応すべきなのか。世界情勢が流動的で不確実性が増し続けている現在、北東アジアにおいては、ナショナリズムの閉鎖性と排他性に左右される外交的思考から脱却して、健全な日中関係を構築することが強く求められている。本シンポジウムは、長年交流関係にある北京大学の研究者をお招きして日中両国の研究者が一堂に会し、率直な議論を通して日中関係の発展の可能性について検討していきたい。

プログラム

開会挨拶 10:40 ~ 11:00

趣旨説明 11:00 ~ 11:10

李曉東 (島根県立大学教授・北東アジア地域研究センター長)

基調講演 11:10 ~ 12:10

帰泳濤 (北京大学国際関係学院副院長)

セッション1 ナショナリズムの再考 13:10 ~ 14:35

報告

李曉東

石田徹 (島根県立大学准教授)

銭雪梅 (北京大学国際関係学院准教授)

討論

梁雲祥 (北京大学教授)

セッション2 「二帯一路」構想と日中関係 14:50 ~ 16:20

報告

畢世鴻 (雲南大学教授)

佐藤壮 (島根県立大学教授)

劉蓮蓮 (北京大学国際関係学院助理教授)

討論

江口伸吾 (島根県立大学教授)

総括 16:20 ~ 16:50

遠藤誠治 (成蹊大学副学長)



※浜田駅よりタクシーか路線バス「県立大学」行にご乗車ください。

使用言語 日本語
(通訳付)

入場無料
先着250名様

日時 2019年10月25日(金)
(10:00 開場)

会場 島根県立大学講堂

〒697-0016 島根県浜田市野原町2433-2

令和元年10月10日
島根県立大学 出雲キャンパス
担当：看護栄養学部看護学科
講師 渡邊克俊（わたなべかつとし）
(TEL) 0853-20-0200 (代表)

第1回 防災ピクニック&防災ミニオリンピックの開催について

1 目的

非常時の備えとして、まずは非常食と非常持ち出し袋を備えることと、避難場所を確認しておくことは、自助に関して最低限の事項です。しかしながら、実際に備えている世帯は少ない上、非常食を作った経験も少ないため、親子で防災について考える機会として、防災ピクニックを企画しました。県立大学出雲キャンパスに集合し、斐伊川河川敷公園まで歩いて行き、土手の高さ、河川の水量、災害時の危険箇所などを自分の目で確かめます。公園では非常食の作り方を読んで親子で作り、非常食の知識などについて学ぶとともに、災害時の避難行動について考えることを目的としています。

2 日時

令和元年10月26日（土） 9時半～13時

3 場所

斐伊川河川敷公園（出雲市武志町）

9時半までに島根県立大学 出雲キャンパスの正面玄関に集合（出雲市西林木町151）

雨天時は、出雲キャンパスの体育館で実施します。

4 主催者

島根県立大学 出雲キャンパス 災害研究会 代表 本末あゆみ（看護学科2年）

5 内容

別添「第1回 防災ピクニック」チラシあり

- ・学生が作成したオリジナルの防災リュックを背負って河川敷公園へ行きます。
- ・河川敷公園で「最近の非常食とローリングストック法」について講話します。
- ・防災リュックに入っている非常食と保存水を取り出して、説明を読み親子で作ります。
- ・非常食が完成するまでの間（約1時間）に、防災ミニオリンピックを行います。
- ・種目は、「土嚢ピットリチャレンジ」と、「防災ワードのピットリ大声コンテスト」です。
- ・ピクニックのコース上にある、鹿島神社の参道には、心肺蘇生法のトレーニングで使用する人形を置く演出をし、倒れている人を発見した参加者が協力して応急処置をします。

6 参加者

- ・小学校4～6年生の親子 25組

7 参加方法・参加費

- ・参加申し込みは、鳶巣と川跡のコミュニティーセンター
または、出雲キャンパス渡邊研究室（0853-20-0520）へ直接お申しいただいても結構です。
- ・参加費：500円/人（非常食代として当日集金） 2人目以降：300円（同左）

8 防災ピクニック開催までの経緯

学生サークル「災害研究会」は、地域の防災力向上のため、鳶巣コミュニティーセンターと協働して定期的に防災に関する研修会を実施しています。昨年度は、鳶巣地区災害対策委員会と共催で防災講演会を2回開催しました。災害に強い地域作りのため、鳶巣地区の約400戸へ実施した防災アンケートでは、非常食や非常持ち出し袋の準備をしなければならないと思っている世帯が70%程度に対して、実際に非常食や非常持ち出し袋を備えている世帯は25%程度でした。まずは備えることから始めるということで、今回、災害研究会の学生が、防災リュックに装備する内容を検討して、オリジナルの防災リュックを作成し、リュックを使った親子参加の防災ピクニックを企画しました。



第1回

防災ピクニック

防災  オリジナル **同時開催**

斐伊川河川敷公園にて

日時：10月26日（土）午前9時半～午後1時

集合・解散：島根県立大学 出雲キャンパス 正面玄関

参加費：500円（保険料含む）当日持参のこと

天候不良時は、島根県立大学の体育館で開催します

募集人数：20～25名程度 定員になり次第 締め切り

- 動きやすい服装・履きなれた靴でご参加下さい
- 帽子など日焼け対策は各自で準備をお願いします
- 活動後のアンケートにご協力ください

学生が作成したリュックを背負って河川敷へGO！
主催：島根県立大学 出雲キャンパス 災害研究会
連絡先：渡邊研究室 0853-20-0520

★防災ワードで
大声コンテスト
★重さぴったり
土のう袋チャレンジ

オリジナル



島根県立大学・島根県立大学短期大学部 松江キャンパス大学祭
第 59 回 飛鳥祭の開催について

1. テーマ

「打ち砕く」

今年度の飛鳥祭テーマは『打ち砕く』です。

このテーマは昨年の『つくる』とは全く反対の意味を持っています。しかし、『打ち砕く』には『つくる』ことが必要ですから、去年のテーマの意味をもとに考えました。四大部も創設されたことで新生島根県立大学松江キャンパスとなるために、今までの伝統を大切にしながら、新たな試みとして皆さんにチャレンジする精神を持ってもらいたいとの願いを込めて、このテーマに決定しました。バンドライブや子ども向けの体験活動、模擬店やサークル活動の成果発表など、多くの企画を用意し、ご来場いただいた全ての方が笑顔になる飛鳥祭を目指し、支えてくださる皆様に感謝の気持ちを込めて、実行委員一同、懸命に取り組んでおります。

2. 日時・期間

令和元年 10 月 19 日（土）・20 日（日） 午前 10 時 ～午後 4 時 15 分頃

3. 場所・会場

島根県立大学・島根県立大学短期大学部
松江キャンパス（松江市浜乃木 7 丁目 24-2）

4. 主催者・施行者・企画者

島根県立大学・島根県立大学短期大学部学友会 飛鳥祭実行委員会

5. 内容・対象

別途チラシ添付

6. 出席者・参加人数

どなたでも参加できます

7. 参加方法・参加費・予算

入場無料（一部の模擬店等で販売する商品は有料です）



10月19日(土)・20日(日)

午前10時～午後4時頃まで

島根県立大学

島根県立短期大学部 松江キャンパス

※駐車場 松江市湖南中学校隣接地、島根県立松江商業高校ほか

入場無料

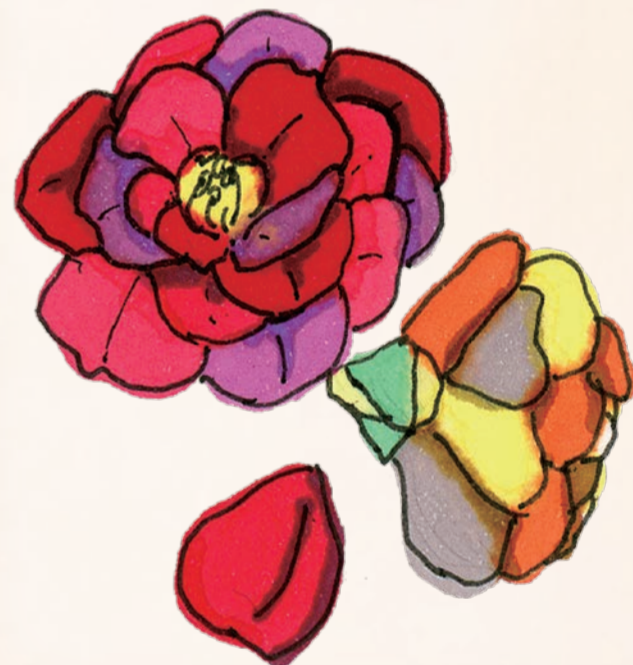
飛

鳥

祭

新生松江キャンパスの大学祭
 伝統を重んじ時代の壁を

「打ち砕く」



ステージ

シクラメン



飛鳥祭企画

- スタンプラリー
- ビンゴ



しまねっこが
くるかも!?